

「行」

神奈川県 正観寺住職 善浪裕勝

お檀家より水槽で飼いきれなくなった大きいカメを頂いたので、境内の池に放してやりました。狭い水槽の中に閉じ込められているよりさぞや世界が広がり亀は喜んでいないに違いないと、時々甲羅干しをする姿を見ては、私自身、満足していました。

ある日、カメの姿が見えなくなり境内を探し回りましたが行方不明。無事を案じていると、百メートル位離れた隣の家の人がお寺のカメが我が家にいたと言って持ってきてくれました。池は石で囲ってあったのですが、それを乗り越えて行ったのです。その後、カメは二度も脱走を繰り返しました。私は、絶対に乗り越えることが出来ないように石を更に高く積み上げ安心していたのですが、カメは池の水の中で産卵を始めたのです。両足を踏ん張り、涙を流しての産卵です。まさか卵を産むなどとは、考えてもいませんでした。

カメは必死に池から出て、どこか産卵に適した安全な場所を探していたのでしょう。私は、飼育環境を造ることが、カメの為であると思っていましたが、その時、不自然と言う環境を造っていた自分本位の考えに気付かされました。

ペットの飼育に限らず、日常生活の中で私たちは、周りの物事を正しく見、他の人に寄り添い、正しく理解しているでしょうか。真に理解すると言うことが如何に難しいか、時には、自分の都合に合わせた頭の中での理解になっていることがあります。

本山では、大勢の僧侶が日夜修行に励んでいます。「自分本位」を離れるべく、起床から就寝まで日課に随い実践していくことが修行なのです。頭の中であれこれと考えず、まず『行』の中に自らを投げ込んでいく。

坐禅、作務、お経を読む等、修行とは、環境や人と調和し和合する『行』の積み重ねによって、身心を調え気付かなかった自己を明らかにすること、なのです。

日常生活において、「自分本位」を離れ、何かの為に誰かの為に、一步踏み出し『行』じたいものです。